

やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信
No.91(2011.10.13)
事務局 TEL/FAX 0584-78-4119
大垣市田町1-20-1 近藤方

長良川河口堰開門の早期実現を

前号でお伝えした愛知県「長良川河口堰検証」プロジェクトチーム(P.T.)は、その下に専門委員会を設置し(7月14日設置)、その専門委員会が「開門調査」の打ち出したP.T.への報告書案を作成して、現在パブリックコメントを募集しています(10月23日まで)。P.T.が愛知県知事に出す最終報告書はもう少し先になりますが、P.T.構成メンバーの顔ぶれからしても、開門調査という方向性でまとまるものと思われまます。

しかし、河口堰の管理権限をもつ水資源機構と国交省中部地整は一貫してこの検証に対して否定的な態度をとっています。また三重県知事は開門に否定的な発言をしており、岐阜県議会も開門調査を牽制する決議をあげています。開門実現には幾多のハードルが予想されます。

ハードルを越えるべく、昨年名古屋市で開催された生物多様性COP10で動いた市民の方々とも共同して、シンポジウムを開催することとなりました。

シンポジウム よみがえれ長良川! よみがえれ伊勢湾!

～ 長良川河口堰開門と生物多様性 ～

とき: 2011年12月10日(土) 13:30 ~ 17:30 (開場13:00)

ところ: 名古屋市・伏見ライフプラザ 鯨城ホール (定員 780名)

主催: 「よみがえれ長良川! よみがえれ伊勢湾!」実行委員会 (代表 大沼淳一)

内容: 挨拶 大村秀章・愛知県知事、河村たかし・名古屋市長 (要請中)

トーク&ハーモニカ「長良川への想い」(仮) 野田知佑さん (カヌーイスト・作家)

パネルディスカッション「長良川河口堰開門と生物多様性」

蔵治光一郎さん(東京大学生態水文学研究所長・准教授)

向井貴彦さん(岐阜大学地域科学部准教授)

亀井浩次さん(藤前干潟を守る会)

(コーディネータ 大沼淳一さん)

<シンポジウムへの協力お願い>

協賛団体になって下さい →ホームページ及び当日プログラムに協賛団体名を載せます。

できればカンパをお願いします →カンパ振込先 ゆうちょ銀行

口座名義 「よみがえれ長良川 よみがえれ伊勢湾」実行委員会

記号12120 番号67353651

(ゆうちょ以外の金融機関から振り込む場合) 店名218(読みニイチハチ)

店番=218 預金種目=普通預金 口座番号=6735365

8/20-21 恒例:徳山村キャンプ、残念ながら雨のため中止しました

5年以上の開門提案

愛知県専門委が報告書

長良川河口堰(せき)＝三重県桑名市＝の開門調査の可否を検討してきた愛知県の有識者会議(座長・小島敏郎青山学院大学教授)の下部組織である専門委員会は21日、「少なくとも5年以上」の試験開放を提案する報告書をまとめた。有識者会議での審議を経て、大村秀章知事に提出されるが、開門調査実施の方向性は踏襲される見通し。

報告書は堰が開放されれば、下流で問題となっている貧酸素状態の改善やヤマトシジミの分布範囲の拡大が予測されるなど、「環境

大幅に下回っていることもあり、木曾川水系などによる代替は可能との試算を示した。一方で、塩水遡上の

を開放した場合、どの程度塩水が上がるのかは不明とする。遡上しても、農業などに被害が生じない対策を求めている。

報告書は1カ月間のパブリックコメント(意見公募)を経て、10月末にも有識者会議に提出される。パブリックコメントは県外からも広く募っており、小島座長は「県と調整の上、要望があれば岐阜や三重などの関係者に対する説明会を行うことも考える」としている。

← 2011.09.22 岐阜新聞
2011.10.09 岐阜新聞 →

長良川河口堰(せき)の開門調査に関する、愛知県有識者会議の専門委員会がまとめた報告書の要旨は次の通り。

【検証・環境】

堰上下流部で汽水性のヤマトシジミは絶滅、減少。アユの減少と堰の運用との因果関係を否定する見解は認められない。汽水性魚類と回遊魚類への影響は顕著。

【検証・利水】

水余りと言え、開門調査の実現に向けて、最も深刻な堰下流の貧酸素状態は解消される可能性が大きい。ヤマ

開門調査報告書の要旨

河口堰の開放水量のうち、水利権が設定され使用されているのは16%にすぎない。運用から16年が経過する中で、明らか

トシジミは堰上下流で分布範囲が拡大し、天然更しも回復。アユは稚魚の遡上(そじょう)環境や産卵場の状態などが改

する塩水に対する対策が必要で、代替水源の確保が第一。候補として岩屋ダム(岐阜県)の水を考

【どのように開門するか】

長良川用水に農業用水基準を超える塩分が流入する危険性があるとき、み堰を閉鎖し、原則開放。開放期間は少なくとも5年以上、季節ごとに変化する環境変化の全過程、

調査項目は治水、利水、塩害、環境。河川や施設管理者、関係自治体を中心に、広く漁業関係者や県民、市民が参加できる「長良川河口堰開門調査協議機関(仮称)」の設置を提言する。

「開門調査」愛知県に提言見通しで波紋

長良川河口堰 論争再び過熱

いる。「河口堰を開ければ、川は戻る力を持っている。ダムのない川はそう多くない。日本の宝として長良川を助けてやってほしい」と切に願う。

河口堰反対の立場をとる岐阜大学地域科学部の富樫幸一教授は有識者会議設置そのものを「画期的」と評価する。「これまで河口堰について、国と関係者が対等な立場でディスカッションする場がなかった。結論

運用開始から16年たった長良川河口堰。愛知県の有識者会議を発端として、開門をめぐる論争は再び火のつく様相を見せている＝三重県桑名市



り切り下げられており、塩水がマウンドで止まることは言い切れない」と警鐘を鳴らす。

ただ、有識者会議が開門調査を提言しても、実現へのハードルは高い。報告書案では関係者による協議機関の設置を提案するが、調査実施を前提に置いたともとれる議論の進め方に、岐阜、三重県の反応は冷ややかな。海津市の松永清彦市長は「一つの市や県が突出して進めるべき話ではない。関係者に対する説明をしつかりしてもらいたい」と批判。岐阜県議会は河口堰の「潮止め堰」としての役割を重視し、適切な運用を求め、農業に必要なが制限されないか心配。塩害が起きた場合、誰が補償してくくれるのか」と憤る。報告書案では開門時の塩水遡上(そじょう)の程度は「分らないのが実情」とする。河口堰建設以前、塩水のせき止めに効果があったとされるマウンド(土の堆積部)が近年再び形成され、遡上(そじょう)の可能性は低いとの見方もあるが、専門委員を務める岐阜大学の藤田裕一郎流域科学センター長は議論の場を創出する姿勢が「河道は堰建設前よりかな

運用開始から16年が経過した長良川河口堰(せき)＝三重県桑名市。開門調査の是非を審議する愛知県の有識者会議が今秋中にも、長期の調査実施を大村秀章愛知県知事に提言する見通しが強まった。開門を求め続ける環境団体や漁業者に対し、国や事業者の水資源機構は塩害への懸念を理由に常時の開門を拒み、岐阜県など関係自治体もこれに追従してきた。大村知事の委嘱を受けた有識者会議の提言は平行線の河口堰論争に一石を投じる。長良川全長の約9割が流れる岐阜県にとって人ごとではなく、実現への期待と塩害発生を不安視する声が交錯している。(西山歩)

「長良川に明かりが見えてきた」。60年にわたり、長良川で川漁を営む羽島市の大橋亮一さんは感慨深げ。6月には有識者会議に招かれ、窮状を訴えた。おぜえ(悪い)川になった。河口堰ができて流速がなくなり、洪水の時だけ一気に流れるから、川底は砂ばかり。鮎の食うあか(藻)もないし、卵を産む場所もない」と。今回、積年の思いが初めて、行政側に正面から受け止められた気がして

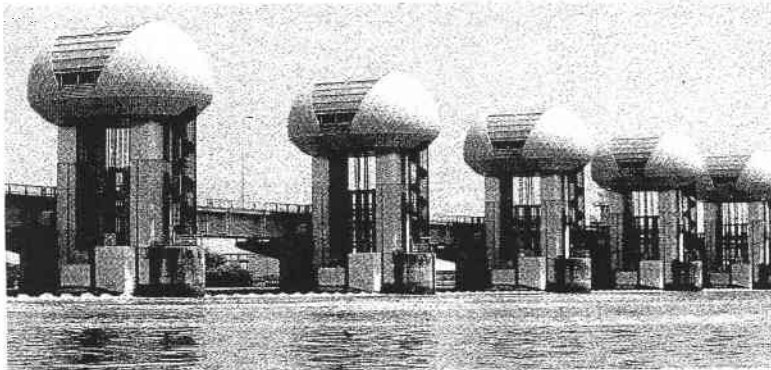
長年の念願 塩害に懸念

環境団体
漁業者

岐阜県
農業者



開門調査に関する愛知県の有識者会議。大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長が2月の選挙で長良川河口堰の開門調査を共同マニフェストに掲げた。有識者会議は6月発足。下部組織の専門委員会が利水、塩害、環境などの分野ごとに河口堰の効果と影響、開門で予想される変化を検証してきた。9月、専門委がまとめた報告書案では「開門調査が『環境復元』になる可能性が極めて高い」として、「5年以上」の実施を提案。塩分の混入が想定される利水分は、既存の水源地では代替可能とする。現在、パブリックコメントを実施している。



「清流」の未来へ熟議不可欠

一方で、塩害が死活問題となる農業者は強く反発する。堰のすぐ上流の海津市にある福江宮農の後藤昌宏社長は「河口堰があるから「潮止め堰」としての役割安心して農業ができる。開門によって塩害が起きたり、農業に必要な水が制限されないか心配。塩害が起きた場合、誰が補償してくれるのか」と憤る。報告書案では開門時の塩水遡上(そじょう)の程度は「分らないのが実情」とする。河口堰建設以前、塩水のせき止めに効果があったとされるマウンド(土の堆積部)が近年再び形成され、遡上(そじょう)の可能性は低いとの見方もあるが、専門委員を務める岐阜大学の藤田裕一郎流域科学センター長は議論の場を創出する姿勢が「河道は堰建設前よりかな

内ヶ谷ダム「検討の場」

環境対策に3、4億円

上乘せでも代替案未満

計画推進で合意

国の見直し対象になっている長良川流域の治水ダム「内ヶ谷ダム」（郡上市）について、県や流域の関係自治体でつくる「検討の場」は三十日、環境対策費の三〜四億円を含めても遊水地などの代替案より優れているとして、ダム計画の推進で合意した。今後、古田肇知事が最終判断し、十月、ろに国に報告。本年度中に国の補助が認められれば、県は二〇一五年度に本体に着工する。（山本真嗣）

検討の場は六月、ダムの遊水地や河道改修などの代替案を比較。ダム計画を進めるべきとする方針案を作った。だが、県の比較で環境への負荷はダムが最も大きいとされたため、対策を求める意見が出ていた。

県によると、ダムの建設事業費は総額三百四十四億円。環境対策

↑ 2011.08.31 中日新聞
↓ 2011.09.29 中日新聞

費用の三〜四億円を上乘せしても、遊水地や水田貯留などの事業費四百八十四億〜九百九十億円を大幅に下回る。環境対策では、周辺に生息する絶滅危惧種のクマタカノ繁殖期と工期をずらすことや、人工林を間伐して餌を確保する（）取る空間を確保する（）減できると結論づけ

長良川河口堰の適正運用求め決議

県議会は6日、長良川河口堰が塩害を発生させないよう適正運用を求める決議を可決した。県政自民クラブが提案し、民主、公明も賛成した。愛知県の大村秀章知事が検討する長良川河口堰の長期開門調査を牽制するのがねらい。決議案は、河口堰上流に塩水が浸入すると海津市の高須輪中など広範囲で塩害が生じるおそれがあると指摘。塩害を発生させないという前提で、堰の建設目的に沿った適正な運用がされるように求めている。

県議会は同日、総額約17.3億円の補正予算案など計31議案を可決・承認して閉会した。古田肇知事は5日に県職員が収賄容疑で逮捕されたことに触れ、「極めて遺憾。厳正に対処して参りたい」と述べた。

治水ダムで水力発電

県側 中電に申し入れ方針

【内ヶ谷ダム】二〇一五年の本体着工を目指す郡上市の治水ダム「内ヶ谷ダム」について、金森吉信県土整備部長は、ダムでの水力発電を検討するよう、発電施設などが高

「内ヶ谷ダム」二〇一五年の本体着工を目指す郡上市の治水ダム「内ヶ谷ダム」について、金森吉信県土整備部長は、ダムでの水力発電を検討するよう、発電施設などが高

額で採算が合わないと断念した。今以前よりも経費が安くなっており、グリーンエネルギーを普及させるために、中電に採算性などを再検討してもらう。実現すれば発電量は五百誌で、一般家庭千戸分程度をまかなえる。

長良川再び宝の川に

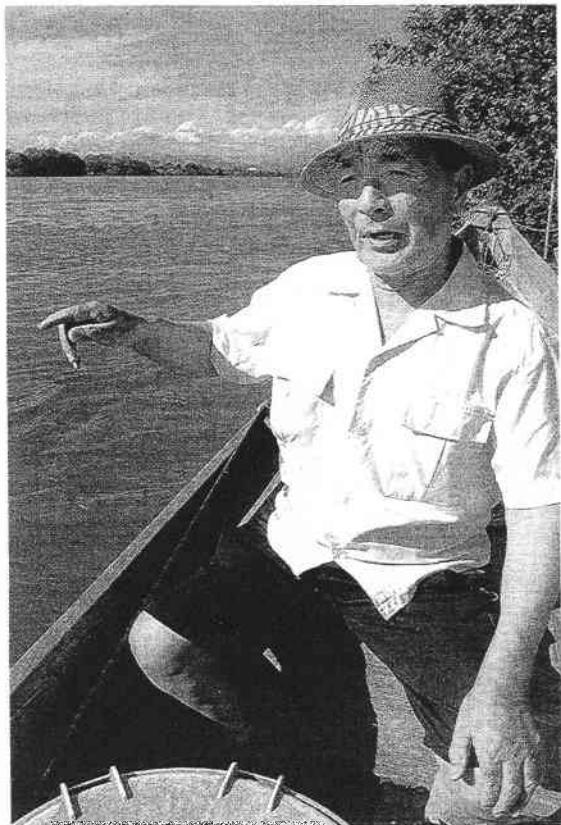
長良川河口堰(三重県桑名市)をめぐる、愛知県の専門委員会が長期の開門調査を求めたことで、建設から十六年にして初めて常時開門の可能性が出てきた。一貫して開門を求め、補償議論を見守っている。(社会部・島崎諭生)

大橋さんは祖父から三代続く川漁師。小学校を出るとすぐ漁を始め六十年以上、長良川と生きてきた。河口から三十五キロほど上流がアユやサツキマスの漁場。かつてはアユがえさにするコケがつく石や、産卵する浅瀬があちどあった。せせらぎの音が聞こえてアユが跳ねるチヨボン、チヨボンという音が聞こえた。本当にいい川やった」と振り返る。

だが、堰の建設後、少しの濁水で川の流れがなくなり、よどむように。川底を青い絨毯のようにへドロが覆い、水温が上がると浮上して流れていく。砂がたまると石や浅瀬が



河口堰建設後 アユ消える



「開門すれば塩害が起こるかどうかも全て分かる」と話す大橋亮一さん＝岐阜県羽島市の長良川で

なくなり、アユはいな下に落ち込んだ。川に入れてもすぐに川になりました。長良水あかでよこれ、魚に川を助けると思って、ともある。大橋さんは「おれんたあは、漁業見破られる。弟の修さ、せひよろしくお願ひ。堰建設後、補償金を東へ、漁業(宅宅)と二人で年三万ます」。今年六月、愛知の建設省(現国土交通省)まで返しに行っ。魚がおらんように匹あったアユの漁獲は、知県が始めた公開ヒアリングに招かれた大橋。受け取りは拒まれたのなら、おるよう昨年も今年もゼロ。年リングに招かれた大橋。受け取りは拒まれたのなら、おるよう間千匹捕ったサツキマ。さんは、開門調査の実施を願った。金額を銀行口座に入れや。しっかりやってく

3代続く羽島の川漁師

河口堰の肯定派から

なくなり、アユはいな下に落ち込んだ。川に入れてもすぐに川になりました。長良水あかでよこれ、魚に川を助けると思って、ともある。大橋さんは「おれんたあは、漁業見破られる。弟の修さ、せひよろしくお願ひ。堰建設後、補償金を東へ、漁業(宅宅)と二人で年三万ます」。今年六月、愛知の建設省(現国土交通省)まで返しに行っ。魚がおらんように匹あったアユの漁獲は、知県が始めた公開ヒアリングに招かれた大橋。受け取りは拒まれたのなら、おるよう昨年も今年もゼロ。年リングに招かれた大橋。受け取りは拒まれたのなら、おるよう間千匹捕ったサツキマ。さんは、開門調査の実施を願った。金額を銀行口座に入れや。しっかりやってく

「おせえ(ひどい)」「補償金をもらいたく。今は亡き漁協の前組合長が、大橋さんを励ましたことがある。堰建設後、補償金を東へ、漁業(宅宅)と二人で年三万ます」。今年六月、愛知の建設省(現国土交通省)まで返しに行っ。魚がおらんように匹あったアユの漁獲は、知県が始めた公開ヒアリングに招かれた大橋。受け取りは拒まれたのなら、おるよう昨年も今年もゼロ。年リングに招かれた大橋。受け取りは拒まれたのなら、おるよう間千匹捕ったサツキマ。さんは、開門調査の実施を願った。金額を銀行口座に入れや。しっかりやってく

開門調査 待ち望む

れ」。今この言葉を支えにする。岐阜、三重両県の知事は「開門すると塩水が遡上して塩害が起きる」と開門調査に反対している。隣接する木曾川や揖斐川は堰がないのに、なぜ長良川だけ起きると言うのか。「開門して確かめてみればええやないか。塩が上がってくるなら、堰が必要だと納得できる」かつては川に入ると踏みつけてしまうほどアユがいた。「本当に宝の川やった。何年か調査してみればすぐに、自然の状態のありがたさが分かるはずや」。舟の上でいとおしそくに川面を見つめた。

長良川河口堰 国と愛知、岐阜、三重県、名古屋市の河口から5・4キロ地点の三重県桑名市に1493億円をかけて建設、1995年に本格運用を開始した。洪水を防ぐため河床を浚渫(しゅんせつ)したのに伴い、塩水の遡上を防ぐため堰を設けた。大村秀章愛知県知事と河村たかし名古屋市長が今年2月、開門調査を公約に掲げ当選。3県1市で最も建設費を負担する愛知県の有識者専門委員会が今年21日、報告書で5年以上の開門調査実施を求めた。実施には岐阜、三重両県や農業関係者など多くの同意が必要で、早期実現は難航が予想される。

河口堰開門 専門委の判断

塩害起きる？ 洪水対策は？

愛知県による長良川河口堰の検証で、有識者をつくる専門委員会が21日まとめた報告書は、大村秀章知事が公約に掲げた「開門調査」を認める内容となっている。開門調査の効果や問題点、調査実施に向けた課題を、専門委はこう判断したの。

「塩害」「治水」「環境」「利水」の4項目について、報告書の内容に沿ってQ&A方式で紹介する。(三戸慶太、磯野大悟)

治水効果には疑問

問 堰の運用と川底を掘り下げたことで、洪水被害が減ったのではないかと聞かれました。

答 堰の目的の一つは、地形の都合で上流にダムを造れない長良川の洪水対策。大雨などで増えた川の水をスムーズに流すためには、川底が高くなった場所「マウンド」を掘る必要があります。それを合わせて堰を造るこ

とで、海水の逆流を防ぐというものです。

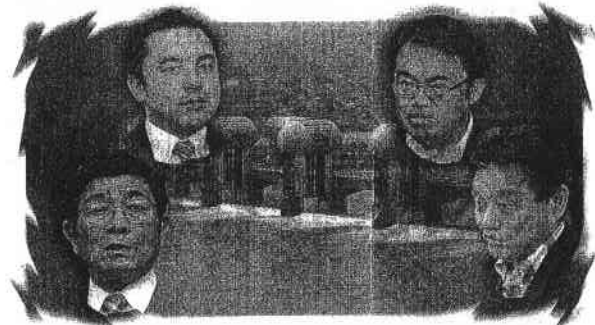
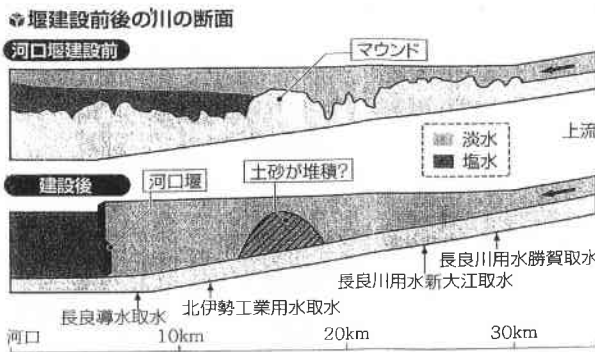
流域の関係者から話を聞いた公開ヒアリングでは、「岐阜県の長良川周辺に浸水被害をもたらした2004年10月の台風23号でも下流の三重県長島町(現・桑名市)に大きな被害はなく、指摘していません。

生態系変化「堰が原因」

問 堰ができたことで川の環境が悪くなったのか。また、開門することで、水質や生物の生態環境が改善されるのか。

答 大きな構造物によって川の流れを変える以上、水質や生き物の生態状況が変わることは避けられません。堰の運用後、川や周辺の生態系が変わり、アユやシジミなどが減って地元漁業にも大きな影響を及ぼしたとの指摘もあります。

堰を管理する水資源機構は、アユなどが川を上るための通り道を作ったり、稚魚を放流したり、堰の影響を最小限にとどめる取り組みを進めており、継続的に行っている調査の結果として、「稚魚が順調に川を上って



開門調査に前向きな大村秀章・愛知県知事と河村たかし・名古屋市長に対し、慎重な立場の古田肇・岐阜県知事と鈴木英敬・三重県知事一写真。右から時計回り

取水わずか16%「水余り」

問 堰の上流で愛知県などが取水している水道水や工業用水は、どんな影響があるのか。

答 愛知、三重県と名古屋

が、淡水化された堰の上流で、水道水や工業用水を取る権利を持っていきます。計画の上では、3県市で1秒あたり計22・5秒の水が利用できますが、実際に使っているのはその16%に過ぎず、名古屋市では現在、まったく使われていません。

報告書では「これらの水を、水道水や工業用水にすべて使うことを前提に資金計画は立てら

長良川河口堰の水利用状況



ない傾向にあり、大濁水に備えるためにも、安定的に供給できる河口堰の水が必要だと主張していますが、専門委では「運用から16年がたっているのに、これだけしか使われていないのは、明らかに水余りだ」と判断。さらに、水道水は、できるだけ上流のきれいな水を使うべきだとしています。

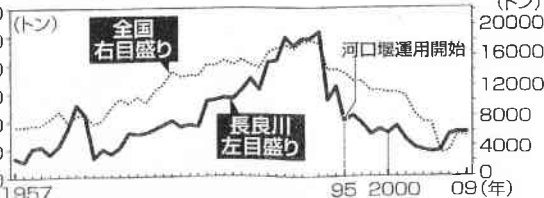
一方、堰を開ければ、堰の上流に塩水が上がってくるのは事実であるため、報告書では、開門調査を実施するために、堰に代わる別の水源を確保することを提案しています。これには、今の水利用のルールを変える必要がありますが、国や自治体同士の調整など難しい問題は残っています。

が期待できるとして

長良川河口堰をめぐる主な経過

- 1960年1月 長良川河口ダム構想を発表
- 68年10月 木曾川水系水資源開発基本計画(フルプラン)策定
- 71年12月 河口堰建設の基本計画が閣議決定
- 76年9月 建設に着手
- 76年9月 台風17号により岐阜県安八町で破堤(安八水害)
- 78年9月 岐阜県知事が着工に同意
- 88年2月 流域の全漁協が着工に同意
- 3月 堰本体工事に着手
- 90年12月 北川石松・環境庁長官(当時)が建設に疑義を唱える
- 95年7月 全ゲートの運用を開始
- 97年7月 堰上流のしゅんせつを完了
- 98年4月 愛知県の知多半島、三重県中勢地域への取水開始
- 2004年6月 フルプラン全部変更
- 11年2月 開門調査を公約に掲げた大村秀章氏が愛知県知事選で初当選
- 4月 堰の更なる弾力的な運用を開始
- 6月 愛知県による独自の検証作業がスタート
- 9月 県の専門委員会が開門調査を認める報告書案を公表

アユの漁獲量



しかし、これについて専門委

では、アユやシジミなどの漁獲量が減ったことなど、堰によって生態環境が変わったと指摘。藻類が増えたことや、水中の酸素量が少なくなるなどの水質の悪化、水辺に生えていたヨシが減ったことについても同様に、堰が原因であると判断し、開門によって、これらの環境の改善が期待できるとして

れており、使われない水のために、自治体の負担が発生している」と問題視しています。

国や各県市は、近年は雨が少